

SD エンターテイメント株式会社



2017年3月期 決算説明会

2017年5月17日（水）
SDエンターテイメント株式会社
代表取締役社長 吉住 実
(東京証券取引所JASDAQ 証券コード4650)

決算概要 (2017年3月期)

P/L

増収増益／経常・最終利益黒字転換／復配

(百万円)

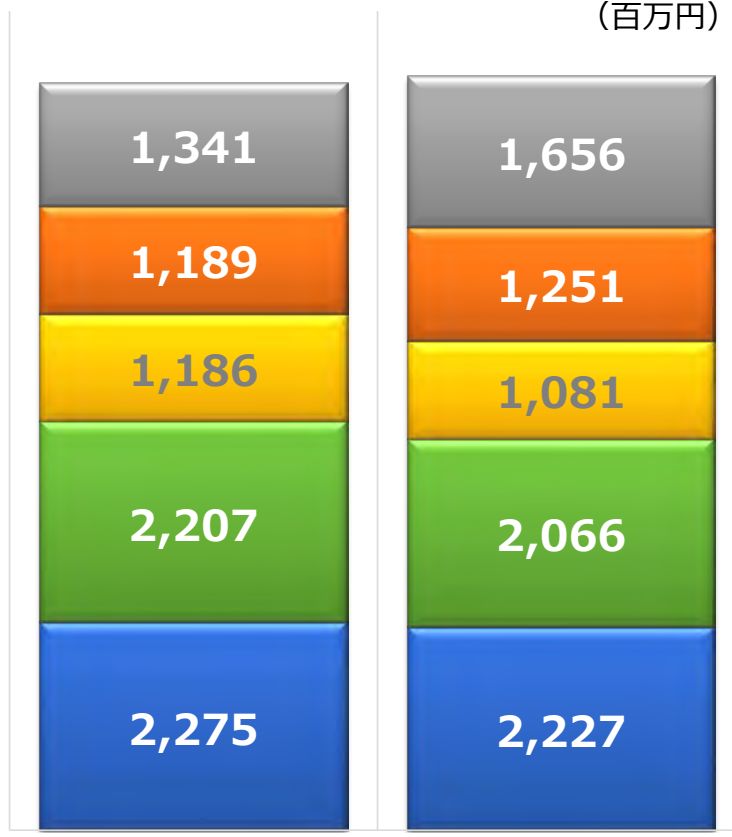
	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減額	増減率
売上高	8,198	8,281	+82	+1.0%
営業利益	132	188	+56	+42%
経常利益	▲34	52	+86	(黒字転換)
親会社の所有者に 帰属する当期純利益	▲94	20	+115	(黒字転換)
1株当たり配当	—	1円	+1円	(復配)

売上高

セグメント別売上高 (通期)

■ GAME ■ フィットネス ■ ボウリング ■ シネマ他 ■ その他

(百万円)



- +** シネマ…「君の名は」大ヒット・アニメ、単館系作品積極上映
- +** その他…子会社売上フル寄与
- フィットネス…前期1店舗閉店・津店移転で2ヶ月空白
- ゲーム…4Qプライズ大幅挽回もメダル軟調

2016年3月期

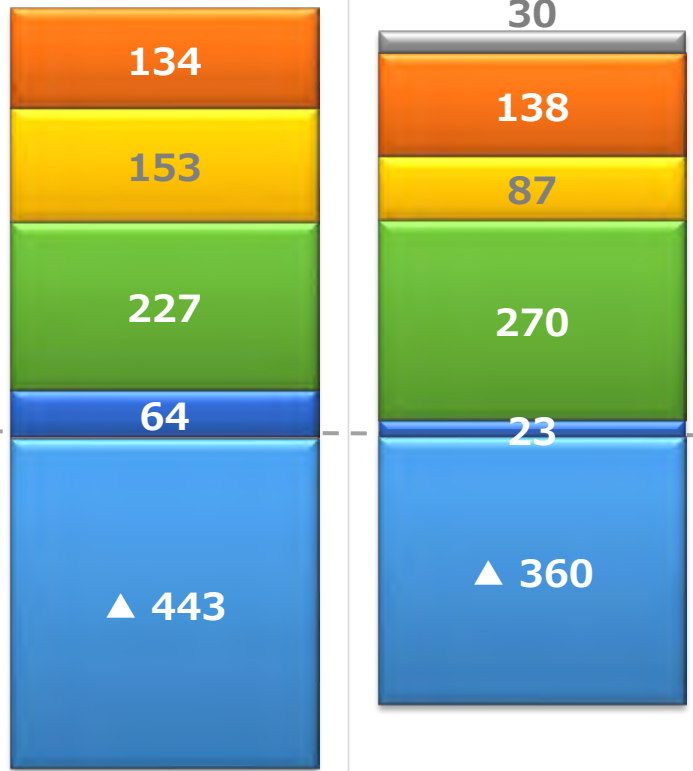
2017年3月期

営業利益

セグメント別営業利益 (通期)

■ GAME ■ フィットネス ■ ボウリング
■ シネマ他 ■ その他 ■ 本部費等

(百万円)



- + フィットネス…不採算店舗閉鎖 + 既存店舗増収で利益率向上
- + シネマ…売上増 + 飲食販売好調で利益増
- GAME…ネットキャッチャー計画未達で赤字化
- ボウリング…売上減が利益減に直結

2016年3月期

2017年3月期

P/L 4Q

3 Q 落ち込みで業績下方修正も

4 Q は増収増益基調へ転換

(百万円)

	2016年3月期 4Q実績	2017年3月期 4Q実績	増減額	増減率
売上高	2,181	2,223	+42	+1.9%
売上総利益	1,654	1,729	+74	+4.5%
営業利益	63	153	+90	+140%
経常利益	20	119	+98	+495%
親会社の所有者に 帰属する当期純利益	▲9	158	+167	(黒字転換)

P/L 4Q

増収増益の主要因

① フィットネス事業好調に推移

SDフィットネス津藤方店
移転成功し、収益増に貢献



② ゲーム事業回復基調

新型クレーンゲームへの
集中投資でプライズゲーム
売上大幅伸長



売上高4Q

セグメント別売上高 (4Q)

■ GAME ■ フィットネス ■ ボウリング ■ シネマ他 ■ その他

(百万円)



2016年3月期4Q

2017年3月期4Q

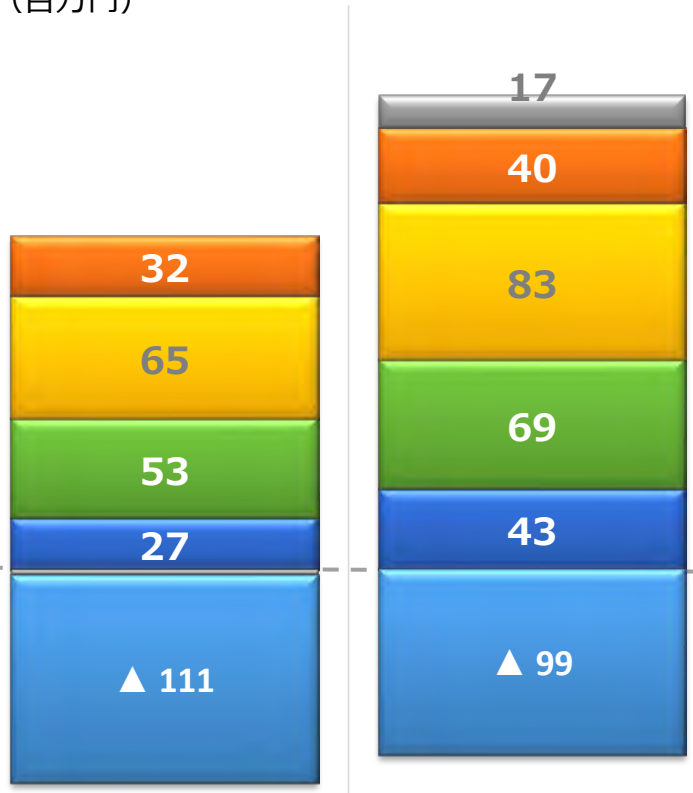
- +** ゲーム…プライズ集中強化策でメダル売上減カバー
- +** 子会社…認可外保育・放課後ディサービス順調に推移
- +** ボウリング・ゲーム…99周年企画で30百万円売上貢献
- フィットネス…前期1店舗閉鎖影響

営業利益4Q

セグメント別営業利益 (4Q)

■ GAME ■ フィットネス ■ ボウリング
 ■ シネマ他 ■ その他 ■ 本部費等

(百万円)



2016年3月期4Q

2017年3月期4Q

- フィットネス…津新店舗順調に推移・既存店舗売上伸長
- 子会社…認可外保育・放課後ディサービス順調に推移
- ボウリング・ゲーム…99周年企画で30百万円利益貢献
- フィットネス・ゲーム…不採算店舗閉鎖で収益体質改善

B/S

自己資本比率22%

財務体質健全性を維持

(百万円)

資産の部 (主要項目抜粋)	2016/3	2017/3	前期末差異	負債の部 (主要項目抜粋)	2016/3	2017/3	前期末差異
現預金	847	1,454	+607	買掛金	286	292	+6
売掛金	331	355	+24	有利子負債	5,390	5,761	+371
棚卸資産	127	125	▲1	その他 流動負債	1,196	1,225	+28
その他 流動資産	239	238	▲1	その他 固定負債	695	855	+160
有形固定資産	6,496	6,751	+254	負債合計	7,568	8,135	+567
その他 固定資産	1,604	1,447	▲157	株主資本	2,138	2,306	+167
繰延資産	65	76	+10	純資産合計	2,144	2,313	+168
資産合計	9,712	10,448	+735	負債・純資産計	9,712	10,448	+735

業績見通し（2018年3月期）

P/L

過去15年間で最高の利益水準へ

(百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	増減額	増減率
売上高	※7,710	※8,600	+890	+11%
営業利益 (営業利益率)	188 (2.4%)	450 (5.2%)	+262	+139%
経常利益	52	300	+247	+473%
親会社の所有者に 帰属する当期純利益	20	200	+179	+885%
1株当たり配当	1円	6.7円	+5.7円	+570%

※カウネット事業において、売上・原価両建てをやめ、手数料収入のみ計上に会計方針変更。
この売上減影響を勘案して比較。(2017年3月期約620百万円・2018年3月期約590万円)

主要セグメントの状況

フィットネスが利益成長を牽引

セグメント別売上高及び営業利益計画

(百万円)

売上高	2017年 3月期	2018年 3月期	前期比較	セグメント 損益	2017年 3月期	2018年 3月期	前期比較
ゲーム	2,227	2,340	+113	ゲーム	23	154	+131
フィットネス	2,066	2,350	+284	フィットネス	270	356	+86
ボウリング	1,080	1,150	+70	ボウリング	87	96	+9
シネマ他	1,251	1,260	+10	シネマ他	138	152	+14
その他	1,087	1,500	+417	その他	30	66	+36
				調整額	▲360	▲374	▲14
売上高合計	7,710	8,600	+890	営業利益 合計	188	450	+262

主な増収増益要因_1

フィットネス事業

売上高

2,066百万円 → 2,350百万円

営業利益

270百万円 → 356百万円

① 前期移転オープンの津藤方店フル寄与

売上高 > +93 百万円 営業利益 > +58 百万円

② 既存店舗のリニューアル お客様満足度向上で『辞めないジム』創り

売上高 > +67 百万円 営業利益 > +41 百万円

③ 自社物件への24時間ジム新規出店

売上高 > +61 百万円 営業利益 > ▲16 百万円

主な増収増益要因_2

ゲーム事業

売上高

2,227百万円 → 2,340百万円

営業利益

23百万円 → 154百万円

1 新型クレーンゲーム機追加導入でプライズ強化



売上高 > +218 百万円

営業利益 > +82 百万円

2 『チョイ置き』モデル[※]出店の促進 → 今期中に 240 台設置



売上高 > +38 百万円

営業利益 > +7 百万円

※量販店やスーパー等の小規模遊休スペースへ、クレーンゲーム機を中心に数台設置、運営する事業モデル

主な増収増益要因_3

■ その他セグメント

売上高
1,087百万円 → 1,500百万円

営業利益
30百万円 → 66百万円

■ 企業主導型保育事業
東京23区内中心に6店舗体制へ



売上高 > +156 百万円 営業利益 > +6 百万円

自社物件へのネットカフェ出店や
テナント誘致



売上高 > +54 百万円 営業利益 > +1.5 百万円

※この他、放課後デイサービス・ネットキャッチャー等の事業伸長含む

企業理念



KENKOU KAGAYAKI ARIGATOU NIPPON



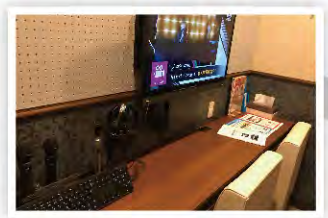
わたくしたちは、
世界でいちばん、イキイキワクワクした
『けんこう (KENKOU)』をつくり、
『えがお (EGAO)』
『かがやき (KAGAYAKI)』
『ありがとう (ARIGATOU)』を世界中に広めます。

映画興行・北海道をルーツに
皆様の充実した余暇活動の
お手伝いを続ける事、はや**99周年**



SD fitness

15店舗 加圧スタジオ
ホットヨガスタジオ含む



ネット&コミック

Dinos cafe

6店舗

その他介護事業・保育事業も展開



99th

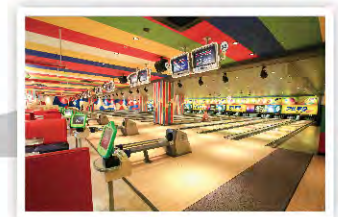
1918年(大正7年)創業

これからも時流に合った
事業へ変化拡大していきます!



ティノスパーク

16店舗



ティノスパウル

9店舗



ティノスシネマズ

4店舗

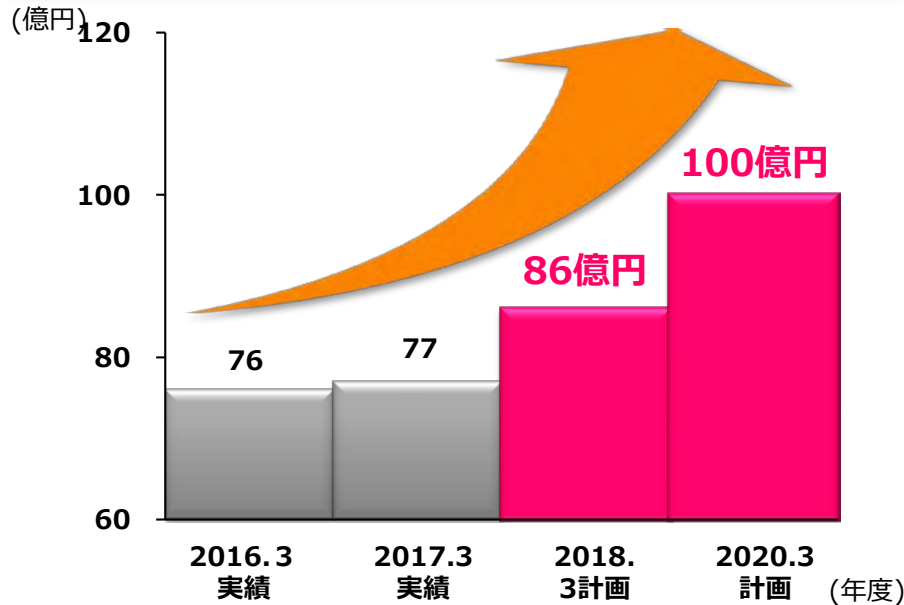
成長戦略

本成長戦略における業績計画

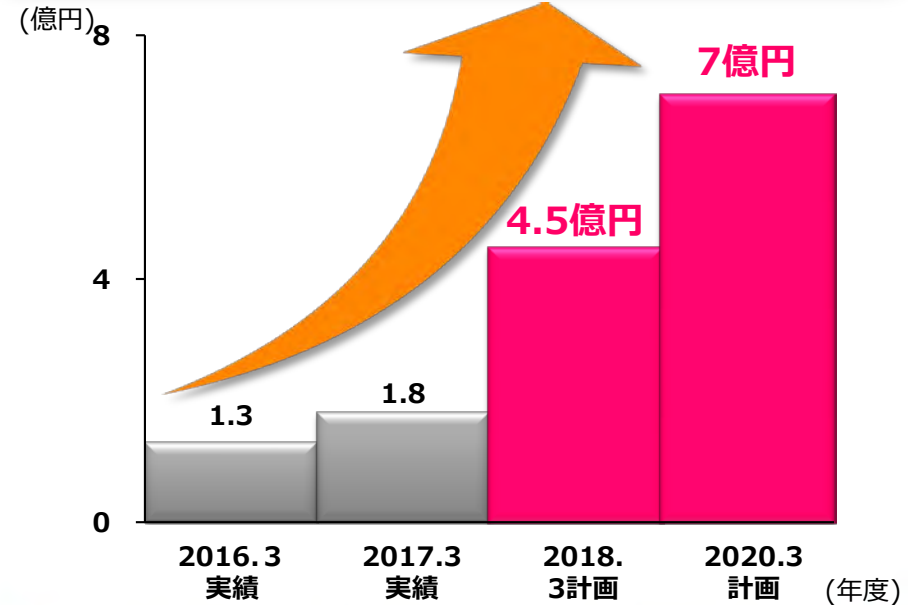
過去 23 年間で最高の利益水準！

● 2020年3月期に、売上100億円・営業利益7億円達成

売上高



営業利益



1995 年上場以降最高利益更新

● 上記達成後、2021年3月期に営業利益9億円視野に

P/L

持続的成長軌道へ！

(百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	2020年3月期 計画
売上高	※7,750	※7,710	※8,600	※10,000
営業利益	132	188	450	700
営業利益率	1.7%	2.4%	5.2%	7.0%
1株当たり配当 (※)	1円	1円	6.7円	10円
配当性向	無配	44%	30%	30%

※カウネット事業において、売上・原価両建てをやめ、手数料収入のみ計上に会計方針変更。この売上減影響勘案し比較。
 ※ 1株当たり配当に関しては、株数を約9百万株と固定して試算したものの。

セグメント別

フィットネス事業を軸に『健康で楽しく』

（百万円）

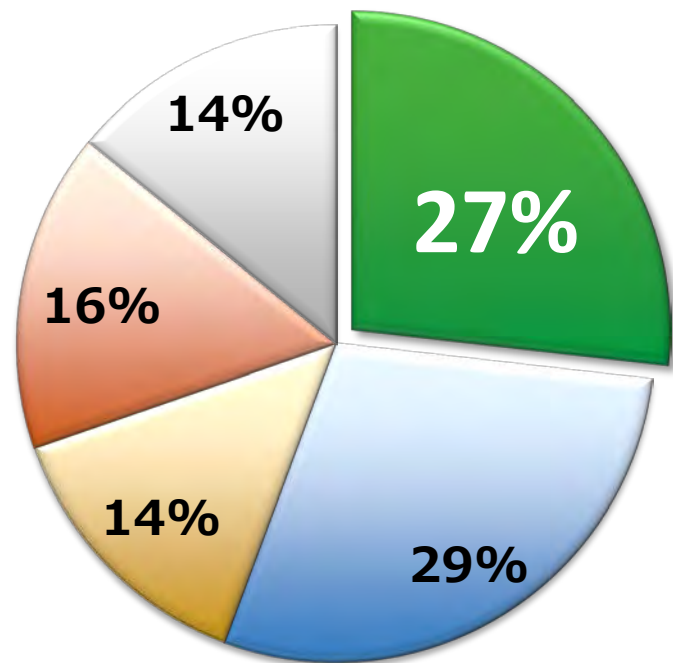
売上高	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2020年 3月期
ゲーム	2,274	2,227	2,340	2,460
フィットネス	2,207	2,066	2,350	3,550
ボウリング	1,186	1,080	1,150	1,180
シネマ他	1,189	1,250	1,260	1,260
その他	894	1,087	1,500	1,550
売上高合計	7,750	7,710	8,600	10,000
営業利益	132	188	450	700

売上シェア推移

フィットネス事業を軸とした事業構造へ

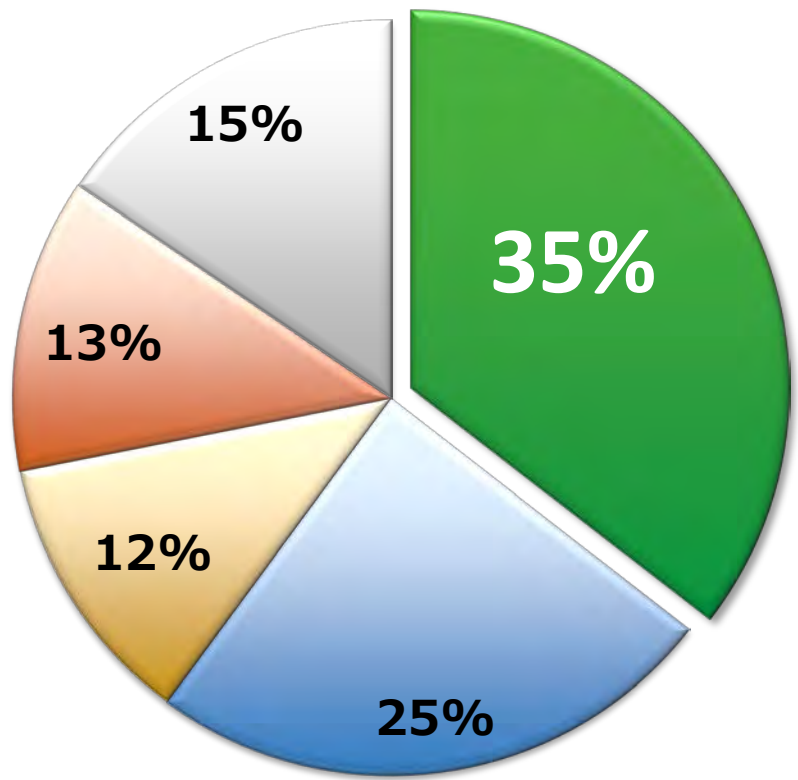
売上高_2017.3

■フィットネス ■ゲーム ■ボウリング ■シネマ ■その他



売上高_2020.3

■フィットネス ■ゲーム ■ボウリング ■シネマ他 ■その他



季節変動の小さいフィットネス事業を拡大し、季節変動やコンテンツによる影響が売上に反映されやすいゲーム・ボウリング・シネマ事業のウェイトを抑えることで、収益構造改善を進める。

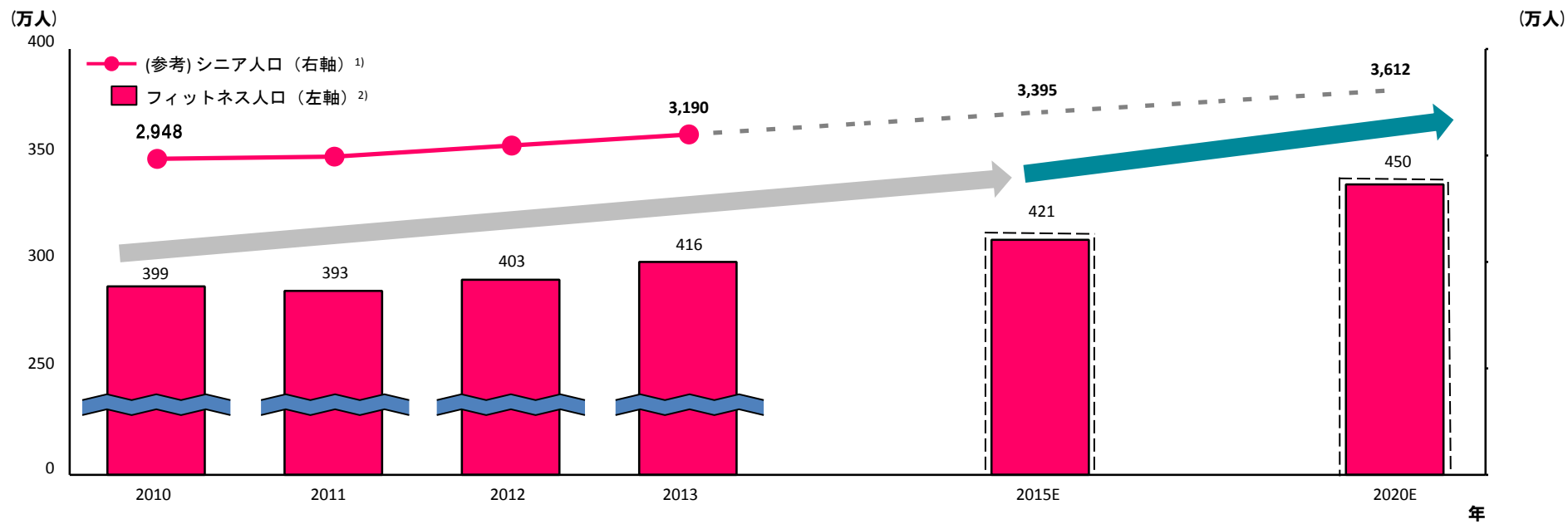
成長の礎



フィットネス市場の成長ポテンシャル

フィットネス市場は、シニア人口の増加に伴って、
今後も引き続き拡大が継続すると見込まれる

フィットネス人口の推移/見通し



1. 総務省「人口推計」、内閣府「H25 高齢社会白書」より65歳以上人口を引用
2. (株) クラブビジネスジャパン「フィットネス業界のデータとトレンド」より、フィットネスクラブ会員数を引用、将来の見通しについては年平均成長率より当社推計

フィットネス出店モデル



自社施設への
新規出店



家賃の実施負担なし
投資回収が早い



複合商業施設への
新規出店



大手SCと共同出店
津藤方店で実績あり



老朽化進む
既存店舗の移転



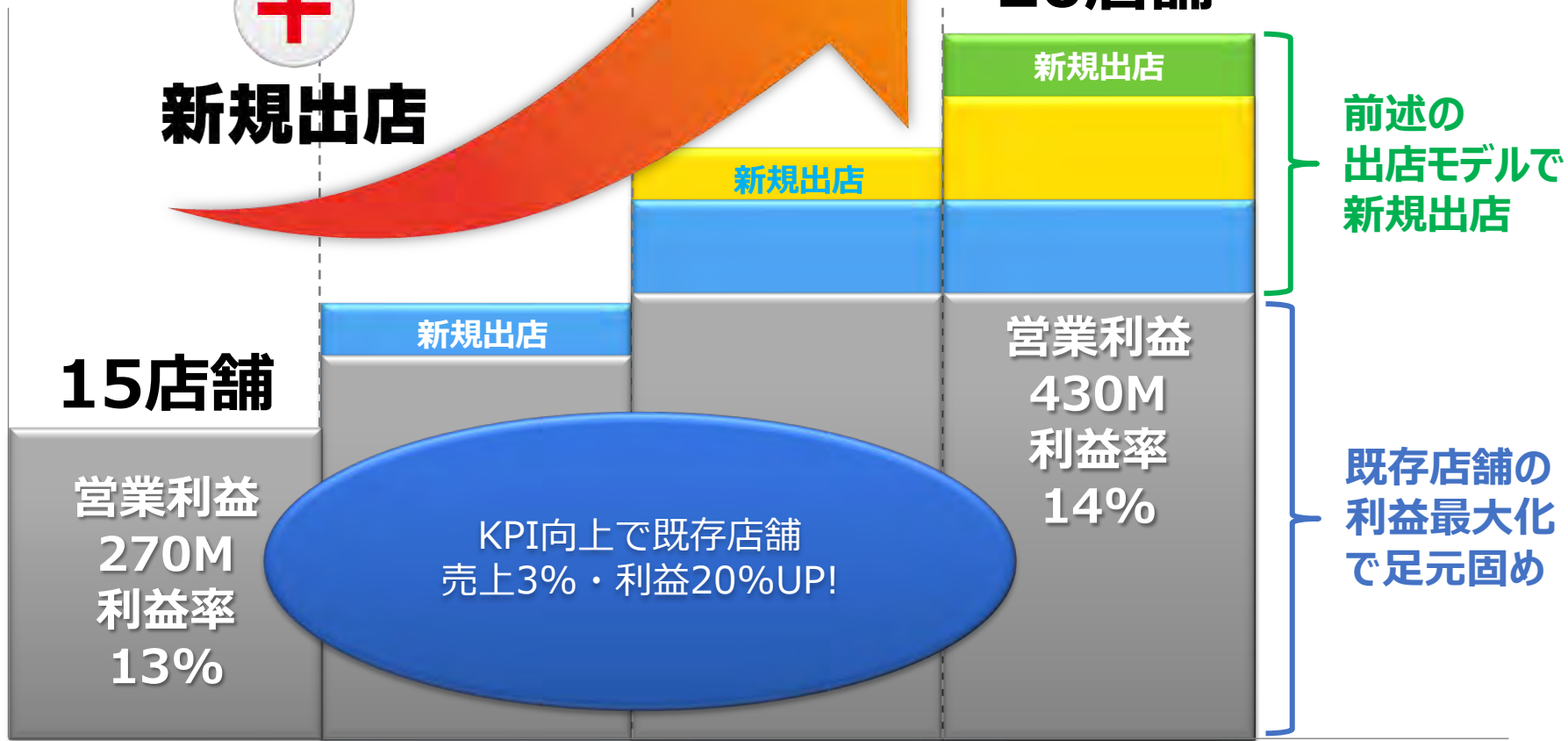
旭・津ともに成功
既存+αが期待できる

収益向上策の骨子

既存店利益最大化



新規出店



KPI向上で既存店舗
売上3%・利益20%UP!

前述の
出店モデルで
新規出店

既存店舗の
利益最大化
で足元固め

提案型店舗の挑戦

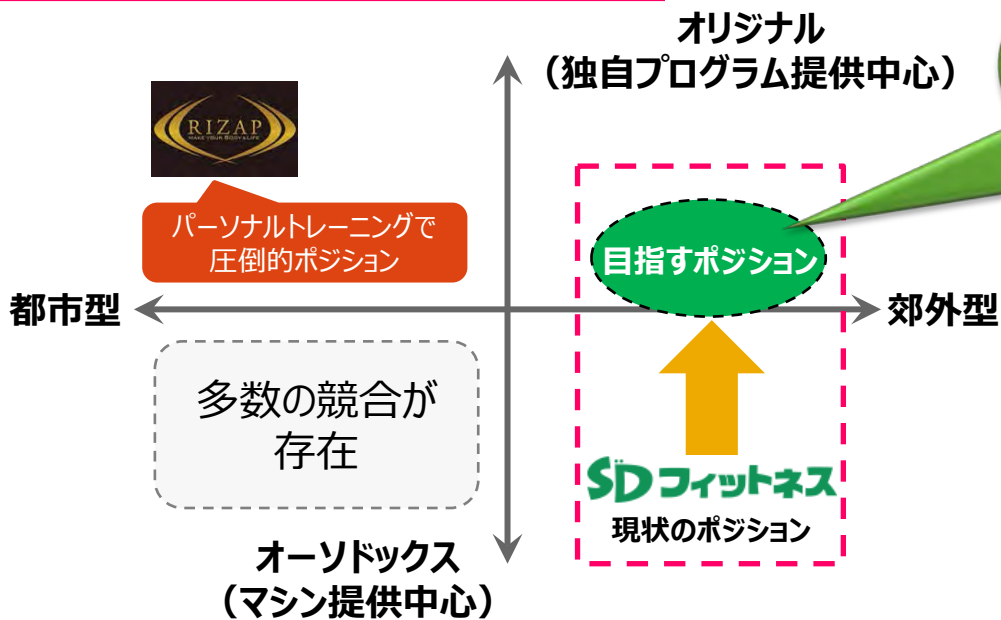
『ランニング&コンディショニングジム』計画中

ランニング指導は、実績のあるパートナーと共同開発し専門性を高める。

※ヘッドコーチ※ 弘山 勉氏 現在は筑波大学駅伝部の監督を務める。陸上界では理論的な指導で実績

※アドバイザー※ 弘山 晴美氏 オリンピック3回出場の陸上中距離界のエキスパート。

フィットネス市場におけるポジショニング



独自性確立へ
常にチャレンジ!



勝ち残り戦略

**前年度 4Q より、新型プライズゲーム機集中投下
今期夏までに計 300 台導入**

➡ プライズゲーム前期比 130%を計画

1,000 坪級の大型店舗を縮小し、効率化

➡ 自社他事業への転換とテナント誘致

**上記 2 施策で余剰となったマシンでの
SC 小規模ゲームコーナーを展開** ※『チョイ置き』モデル

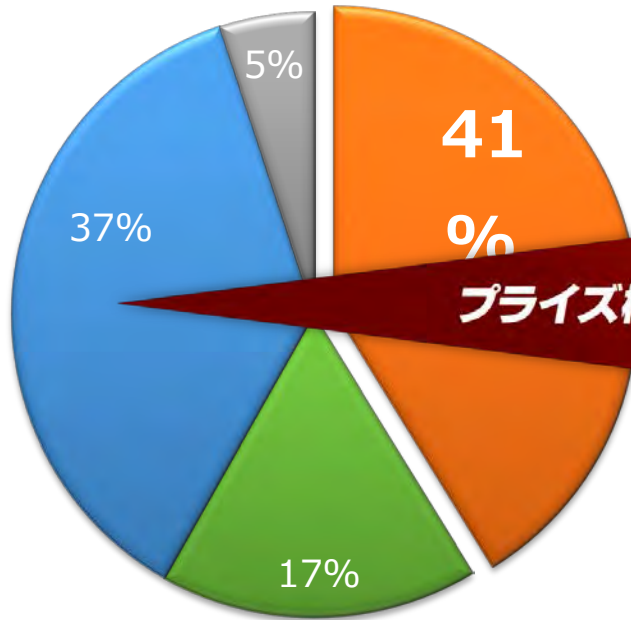
➡ 店舗あたり 5～10 台。20 店舗目標

※量販店やスーパー等の小規模遊休スペースへ、クレーンゲーム機を中心に数台設置、運営する事業モデル

勝ち残り戦略

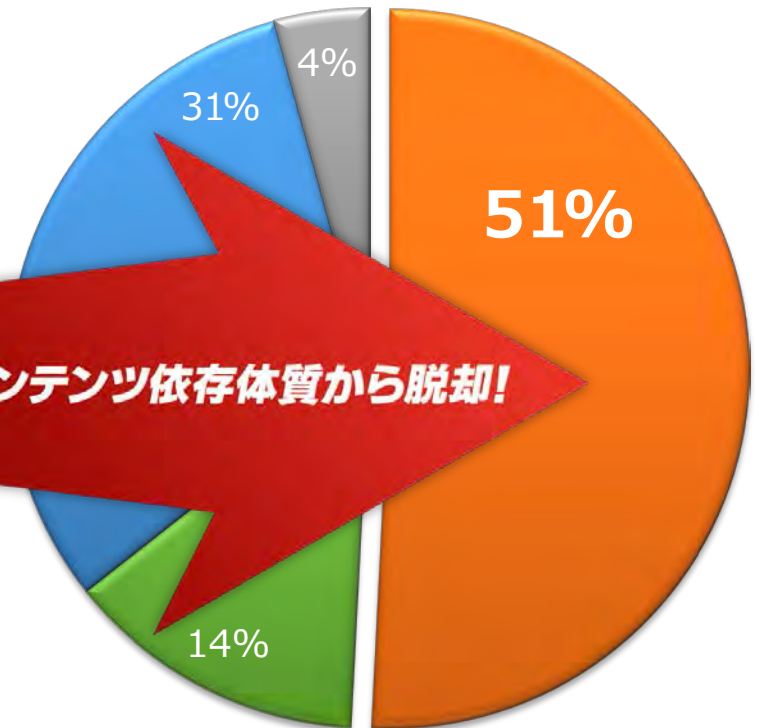
売上高_2017.3

■プライズゲーム ■メダルゲーム ■ビデオゲーム ■その他



売上高_2020.3

■プライズゲーム ■メダルゲーム ■ビデオゲーム ■その他



プライズ構成アップでコンテンツ依存体質から脱却!

ゲーム既存店利益最大化は、プライズゲーム伸長と坪効率向上

全体像まとめ

■ **フィットネス事業への成長投資加速**

毎年度2店舗以上の新規出店 (大手スーパーチェーンとの協業含む)

➡ **ゲーム機器投資偏重の是正**

■ **ゲーム事業の均衡市場でのシェア確保**

店舗の小規模化で機動性高い出退店体制確立

➡ **チョイ置きモデル出店推進**

■ **選択と集中で収益力改善**

不採算店舗の撤退と自社物件業態転換

➡ **ゲーム面積減で新たな業態追加自社物件の活性化図る**

投資戦略

【設備投資計画】 総額26億円（3年間）

- ① フィットネス店舗新規出店
- ② フィットネス既存店リニューアル・移転
- ③ クレーンゲーム機への集中投資
- ④ 自社ビル業態転換投資
- ⑤ 企業主導型保育投資
- ⑥ 既存設備更新
- ⑦ 会員システム・基幹システム投資

財務戦略

【配当政策】

2017年3月期 復配 1円

2018年3月期 増配 6円以上を計画

2019年3月期以降も

配当性向 30% 維持し、

持続的増益で、持続的増配へ

株主優待の充実 《年2回実施》 権利確定日 3月末・9月末

所有株式数	優待内容
100 株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券) 4枚 または、3,000 円相当の健康コーポレーショングループ商品
200 株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券) 8枚 または、6,000 円相当の健康コーポレーショングループ商品
400 株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券) 16枚 または、12,000 円相当の健康コーポレーショングループ商品
600 株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券) 20枚 または、15,000 円相当の健康コーポレーショングループ商品
1,000 株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券) 24枚 または、18,000 円相当の健康コーポレーショングループ商品



免責事項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。